

# 東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

## 令和 2 年度上半期事業報告書



令和 2 年 11 月

# 目 次

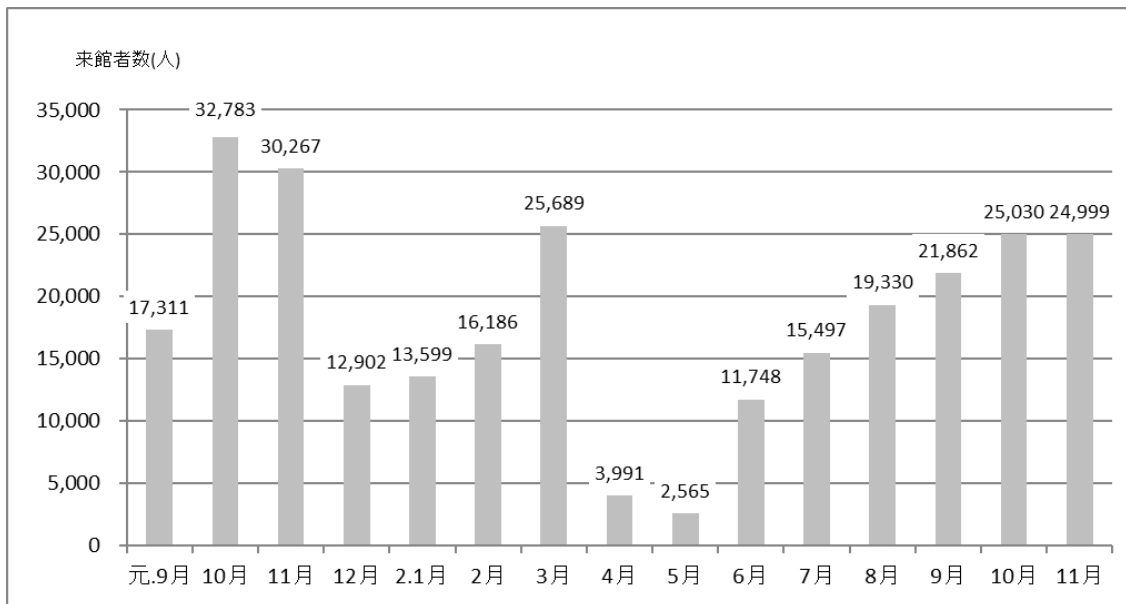
項 目	頁
<b>来館者の状況</b>	
1 来館者数の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	3
<b>事業計画に基づく取組状況</b>	
I 展示事業	
1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施	4
2 企画展示の実施	4
II 教育・普及事業	
1 利用者層に応じた学習プログラムの作成	7
2 セミナールーム等を活用した学習講座・語り部の講話等	7
3 復興教育関係研修会等での利用促進要請	8
III 広報宣伝事業	
1 情報発信	8
2 教育旅行等の誘致	9
3 その他誘客促進	10
IV 連携事業	
1 海外、大学、関係機関との連携	11
2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組	12
V 避難訓練・受賞	
1 避難訓練	13
2 受賞	13
<参考1> 新聞記事等	15
<参考2> 東日本大震災津波伝承館概要	21

## 来館者の状況

### 1 来館者数の状況（令和2年11月30日時点）

月別来館者数（累計 273,759 人）

単位：人



単位：人、日

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	元年度からの累計
来館者数(A)	3,991	2,565	11,748	15,497	19,330	21,862	25,030	24,999	125,022	273,759
開館日数(B)	11	7	30	31	31	30	31	30	201	384
1日当たりの平均来館者数(A/B)	362	366	392	500	624	729	807	833	622	713

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年4月12日(日)から5月24日(日)まで休館した。

令和2年度平日、土日祝日別来館者数 (R2.11.30 現在)、( )は元年度

単位：人、日

	平日	土日祝日	計
来館者数(A)	71,055 (72,998)	53,967 (75,739)	125,022 (148,737)
開館日数(B)	138 (123)	63 (60)	201 (183)
1日当たりの平均来館者数(A/B)	515 (593)	857 (1,262)	622 (813)

令和2年度に入り、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年4月12日(日)から5月24日(日)まで休館した。1日当たりの平均来館者数は、令和2年4月から5月の間は300人台と大幅に減少したが、9月以降は、県内及び東北からの小中学校や三陸を周遊する観光ツアーの団体予約の増加に伴い、10月は807人となっている。

令和2年度の11月30日現在における1日当たりの平均来館者数は、平日が515人、土日祝日が857人と、土日祝日は概ね平日の1.7倍となっている。

## 2 区分別団体予約の状況（令和2年10月31日時点）

単位：件、人

		予約者数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学 校	小学校	100	13	113	3,754	445	4,199
	中学校	49	17	66	2,999	1,236	4,235
	高校	16	12	28	737	1,261	1,998
	大学	4	4	8	44	58	102
	計	169	46	215	7,534	3,000	10,534
学 校 以 外	観光ツアー	32	190	222	730	4,641	5,371
	海外(観光含む。)	0	0	0	0	0	0
	地域の団体	34	10	44	749	164	913
	取材・報道	9	13	22	18	48	66
	国(省庁、議員)	3	15	18	43	104	147
	自治体	12	8	20	152	57	209
	議会	3	2	5	41	15	56
	議会(県外)	0	2	2	0	3	3
	県(部局、県議会)	14	1	15	160	15	175
	その他	32	26	58	471	425	896
計	139	267	406	2,364	5,472	7,836	
合計	308	313	621	9,898	8,472	18,370	

学校では、県内外ともに小中学校の件数が突出して多い。

学校以外では、観光ツアー(222件)が最も多く、次いでその他の団体※(58件)、地域の団体(44件)である。

県内では、地域の団体(34件)が最も多く、次いで観光ツアー及びその他の団体(32件)である。

県外では、観光ツアー(190件)が最も多く、次いでその他の団体(26件)、国(省庁、議員)(15件)である。

※ 法人の視察・研修、任意の集まり等

## 3 都道府県別団体予約の状況（令和2年10月31日時点）

### (1) 団体予約件数

単位：件、人

	予約者数	人数		予約者数	人数		予約者数	人数
北海道	6	87	栃木県	5	389	愛知県	44	1066
青森県	11	390	埼玉県	3	637	京都府	2	101
岩手県	308	9,898	千葉県	2	9	大阪府	3	37
宮城県	48	1,169	東京都	123	2547	岡山県	2	50
秋田県	11	267	神奈川県	4	166	愛媛県	1	180
山形県	13	504	新潟県	1	28	福岡県	2	42
福島県	14	514	山梨県	2	33	鹿児島県	1	3
茨城県	13	234	静岡県	2	19	合計	621	18,370

都道府県別でみると、岩手県(308件)が最も多く、次いで東京都(123件)、宮城県(48件)が多い。

### (2) 区分別予約件数

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約者数	都道府県	予約者数	都道府県	予約者数	都道府県	予約者数
1	東京都	91	岩手県	100	岩手県	49	岩手県	16
2	愛知県	39	青森県	4	宮城県	4	埼玉県	3
3	岩手県	32	宮城県	4	秋田県	3	栃木県、	2
4	宮城県	19	秋田県	3	山形県	3	神奈川県	2
5	茨城県	10	山形県	2	福島県	3	愛知県	2
6	その他	31			その他	4	その他	3
計	計	222	計	113	計	66	計	28

区分別でみると、観光ツアーでは東京都(91件)が最も多く、学校では小中高とも岩手県が多い。

## 事業計画に基づく取組状況

### I 展示事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、常設展示及び企画展示の実施により、来館者に効果的な学びの場を提供する。

#### 新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、換気の徹底、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、床2m間隔のマーク表示、シアター席等の間隔確保等

#### 1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施

機器類の維持管理等、解説員による展示解説を実施するとともに、展示（マップ類）の一部更新を行う。

また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、来館者が安心して見学できるよう努めている。

##### (1) 展示施設の維持管理

動作確認等の日常点検及び年1回の保守点検を実施する。（令和3年2月8日(月)、9日(火)）

##### (2) 解説員研修

団体対応等の解説業務を通じたノウハウを蓄積・共有しながら、解説員の展示解説能力の向上を図るとともに、展示解説研修及び接遇研修、救急・救命講習を実施する。

##### (3) 展示解説

予約団体への団体解説及び来館者への当日解説等を実施する。

※ 現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、当日解説等を見合わせている。

##### (4) 展示の一部更新

市街地マップの時点修正、全面開園に向けた公園マップの更新準備等を実施する。

#### 2 企画展示の実施

年4回定例実施する企画展示は各1か月程度の実施を予定。うち3回は、常設展示の各ゾーンから1項目を選び、内容を補足説明することにより、自然災害への理解を深め、防災力の向上に資するものとする。うち1回は、東日本大震災津波の発災から10年にあたり、震災伝承の取組をさらに推進する企画を検討していく。

##### 第1回 解説 ゾーン1-2「津波堆積物剥ぎ取り標本」(自主企画①)

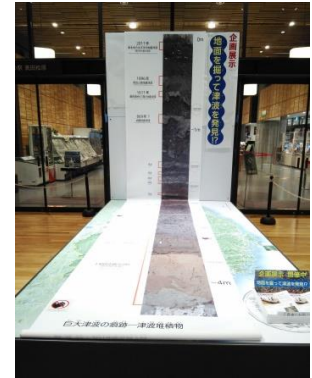
内容：ゾーン1-2に展示している「津波堆積物剥ぎ取り標本」について、詳しく解説。

目的：展示資料から、大津波がくり返し襲来している事実を学び、津波災害への防災意識を高める。

また、最新の津波堆積物研究の成果に触れ、様々な手法により津波研究が進められていることについて、理解を深める。

期間：令和2年6月11日(木)～7月8日(水)

主催：東日本大震災津波伝承館



### 第2回 「東日本大震災津波警察写真展～あの日を忘れない～」(共催)

内容：発災当時の警察の活動について岩手県警の活動についての写真を展示。

目的：発災当時の警察の活動について岩手県警察本部との共催により写真展を実施し、災害から命を守る大切さを考える機会とする。

期間：令和2年7月23日(木・祝)～8月19日(水)

主催：岩手県警察本部、東日本大震災津波伝承館



### 第3回 解説「東日本大震災津波の時間経緯」(自主企画②)

内容：ゾーン1～3に関連する「東日本大震災津波の時間経緯」について、詳しく解説。

目的：東日本大震災津波発災時の警報(大津波)発表の時間経緯及び警報発表の仕組み、その後の改善点等を学び、防災力の向上に役立てる。

期間：令和2年9月8日(火)～10月11日(日)

主催：東日本大震災津波伝承館





#### 第4回 開館1周年記念展示「伝えたい思い～メッセージボードに寄せられた言葉～」(自主企画③)

内容：令和元年9月22日開館から令和2年4月11日(臨時休館前)までに寄せられたメッセージ7000点余から約90点を展示。

目的：開館1周年にあたり、メッセージボードに寄せられたメッセージの一部を展示し、支援への感謝や震災伝承、復興への思いを共有し、自然災害に強い社会の実現に向けて歩みを進める一助とする。

期間：令和2年9月18日(金)～同年9月27日(日)

主催：東日本大震災津波伝承館



#### 第5回 3.11 伝承ロードパネル展(共催)

内容：三陸国道事務所との共催により、震災遺構、震災伝承の取組み、東日本大震災の対応についてのパネルを展示。

※「3.11 伝承ロード」とは、東日本大震災の事実や記憶、経験や教訓を伝えることで結ばれて新たにできる教訓・伝承の道(取組み)のこと。

目的：災害の事実や記憶、経験や教訓を忘れず後世に伝承する。

期間：令和2年10月31日(土)～同年11月12日(木)

主催：三陸国道事務所、東日本大震災津波伝承館



## 第6回 解説「避難行動の事実」(自主企画④)

内容：ゾーン3に関連する「避難行動の事実」について、詳しく解説。

目的：東日本大震災津波時の避難行動の課題、災害時の避難情報のポイント等について学び、適切な避難行動に役立てる。

期間：令和2年12月15日(火)～令和3年1月11日(月・祝)

主催：東日本大震災津波伝承館

## 第7回 調整中

内容：(東日本大震災津波発災から10年)

目的：震災伝承の取組を推進する。

期間：令和3年2月～3月 予定

## II 教育・普及事業

子どもから大人まで幅広い層のニーズに応じた学習プログラムを提供するとともに、セミナールームを活用したイベント等を通じて、幅広い層に震災伝承や防災に興味を持ってもらう。

### 1 利用者層に応じた学習プログラムの作成・実施

- (1) 小学生向け「震災伝承ノート」の原稿作成
- (2) 中高生向け「震災伝承ノート」の配付、見学のサポートや学校での振り返り授業等での活用
- (3) 一般向け「未来をつくる」ワークブックの配付、展示解説での活用
- (4) 県内の小・中・高等学校訪問による学校ニーズに応じた伝承館の利活用の推進
- (5) 来年度整備予定の野外活動センターと連携した児童・生徒向け学習プログラムの検討

### 2 セミナールーム等を活用した学習講座、語り部の講話等

新型コロナウイルス感染状況を注視しながら取り組む。

- (1) いわて TSUNAMI メモリアル講座(企画展示関連講座、語り部講話等)
- (2) 共催展(関係機関、各種団体等)

#### ア 3.11 伝承ロードパネル展【再掲】

共催団体 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

開催期間 令和2年10月31日(土)～11月12日(木)

- (3) 映画等上映会
- (4) ワークショップ・体験イベント等

避難所運営ゲームHUG(H=避難所 U=運営 G=ゲーム(ハグ))を通じた避難所運営学習の指導を行った。

ア 対象：大船渡市立赤崎中学校3年生 20人

実施日：令和2年10月27日(火)

場所：陸前高田市コミュニティーホール

イ 対象：一関市立川崎小学校5年生 18人

実施日：令和2年11月5日(木・津波防災の日)

場所：陸前高田市コミュニティーホール

### 3 復興教育関係研修会等での利用促進要請

- (1) 復興教育関係研修会等での当館の積極的な利用の呼び掛け



復興教育関係研修会において、県内の学校向けに、復興教育の一環として当館の積極的な利用を呼びかける。

ア 令和2年度復興教育研修会

【研修会参加一覧】

開催期日	主管事務所	場 所	参加校
7月3日(金)	盛岡	盛岡市総合福祉センター	小学校28校 中学校16校
7月28日(火)	沿岸南部	三陸公民館(大船渡市)	小学校19校 中学校5校
8月26日(水)	中部	岩手県生涯学習推進センター	小学校49校 中学校25校

※ 今後、県北、宮古に参加予定。県南は今年度開催せず

イ 中部教育事務所指導主事研修会

7月15日(水) 場所：花巻地区合同庁舎

(2) 教員現地研修会の開催

ア 開催日 令和2年8月7日(金)(於:セミナールーム)

イ 参加者 23名

修学旅行や校外学習で伝承館を利用いただくには、まず教員の施設理解を深めることが肝要であることから、県内の教員向けに現地研修会を開催。当初定員の倍以上の参加希望をいただくほどの需要があったほか、参加者アンケートでも極めて高い評価(館内の見学・解説については満点評価)を得た。また、当館初の試みとしてTV、新聞でも報道され、広報宣伝の観点からも効果を上げることができた。

この結果を受けて、12月26日(土)に第2回目を開催する予定。

### III 広報宣伝事業

広報宣伝活動は、新型コロナウイルスの動向を見ながら、展開していく。

#### 1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ及び県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図った。

(2) ホームページによる情報発信

団体予約受付の案内及び団体予約状況を掲載。

当館について、常設展示、利用案内を掲載。

企画・イベント、お知らせを掲載。

(3) 語り部等の紹介

令和2年8月より、「語り部等の紹介」と題して県内の震災ガイドや語り部をホームページにて紹介。

紹介した語り部等：宮古観光文化交流協会(学ぶ防災)、三陸鉄道(震災学習列車)、釜石観光ガイド会、大船渡津波伝承館、一般社団法人マルゴト陸前高田、陸前高田市観光物産協会(陸前高田観光ガイド部会)、NPO法人 体験村・たのはたネットワーク

(4) ホームページの多言語対応

英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語、インドネシア語の翻訳ページを作成し9月18日に公開。

(5) SNSによる情報発信

「フォロワー数の増加」を当面の目標とし、継続的な投稿により「知ってもらい」「忘れられない」ことに努める。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休館を受け、休館期間中毎日、Twitter 上での展示解説を実施。情報発信を強化しフォロワー数の増加や認知度向上につながった。

(6) ツイッター、インスタ、フェイスブックのフォロワー数（令和2年11月12日時点）

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	2,050	1,521
Instagram	260	753
Facebook	162	692

(7) 月別記事掲載数（新聞）

令和2年度新聞記事掲載数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
計	7	10	12	13	28	38	21	129

令和2年度新聞記事掲載数(内容別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
運営	7	9	2	4	20	22	4	68
展示	0	0	4	1	1	6	4	16
教育	0	0	4	6	7	7	4	28
行事	0	1	2	0	0	2	6	11
特集・コラム	0	0	0	2	0	1	3	6
計	7	10	12	13	28	38	21	129

## 2 教育旅行等の誘致

(1) 学校訪問を通じた働きかけ

県内の小中高校及び近隣県の学校に、伝承館を教育旅行や校外学習先として検討してもらえよう、学校訪問により働きかけた。（R2. 11. 12時点、予定を含む）単位：校

区分	沿岸地区	県南中部地区	計
小学校	43	45	88
中学校	25	27	52
高等学校	12	20	32
計	80	92	172

【主な意見】

- ・ 津波について科学的メカニズムを知らせ、一人一人が判断できる素養を磨ける施設。他の施設では情に訴える展示が多く、どうすればよいのかの視点が不足している。伝承館では、分析し傾向を学べるような展示がされている。そうすれば被害を最小にできるというメッセージが感じられる。（県南地区の高校）
- ・ 伝承館に行くためにはバス費用を捻出しなければならない。遠足と抱き合わせの形であれば見学も考えられる。その場合には昼食を摂る場所があればよい。（沿岸南部地区の小学校）
- ・ 内陸の子は津波の恐ろしさを全く知らない。体験的な要素があれば。津波の速さ、威力を体感できるものがあればいい。（中部地区の小学校）

(2) 岩手県教育旅行誘致説明会

岩手県教育旅行誘致説明会に継続的に参加して、「選択肢のひとつ」として位置付けてもらい、コロナウイルスによる往来に制限がなくなった際に利用いただけるよう努める。

大阪会場：11月18日（水）参加予定（中止）

- (3) 教員現地研修会の開催【再掲】（詳細はⅡ 3 (2)のとおり）

### 3 その他誘客促進

- (1) リーフレット作成（日・英・中・韓）

今年度は、予定しているリーフレット日本語版の全面改定に合わせて、英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語版を作成する。

- (2) 伝承館紹介動画制作

伝承館を紹介する動画を制作して、岩手県が開催・出展する各種イベント等で活用する。

- (3) 都営地下鉄広告

令和元年度同様、東京都交通局の復興支援を活用し、都営地下鉄全線全車両への中吊り広告を掲出。

※ 実施時期：令和2年11月11日（水）～11月24日（水）



- (4) オンライン展示解説の試験実施

新型コロナウイルス感染症状況下における新たな震災伝承スタイルを模索するため、各種団体と連携してオンラインでの展示解説に試験的に実施。

ア 岩手日報社と連携したオンライン展示解説の実施（令和2年7月20日（月））

相手方 愛媛県立伊予高等学校

イ マルゴト陸前高田と連携したオンライン展示解説の実施（令和2年8月26日（水））

相手方 清泉女子大学地球市民学科

※ いずれも、新型コロナウイルス感染症禍における震災伝承の新たな取組としてTV、新聞等で多く取り上げられ、広報宣伝の面でも極めて高い効果を得ることができた。

#### IV 連携事業

展示事業、教育・普及事業及び広報宣伝事業の内容を充実・発展させるため、大学、類似施設等との連携を引き続き推進していく。

##### 1 海外、大学、関係機関との連携

###### (1) 岩手大学、東北大学との連携

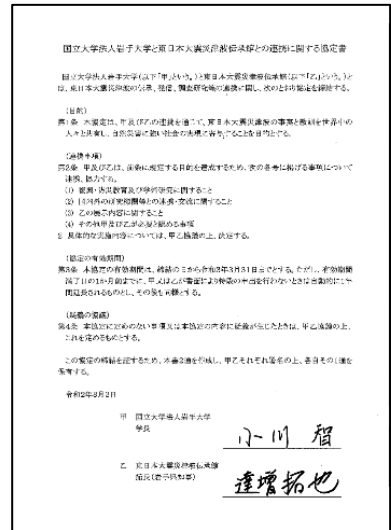
伝承館が、震災・津波災害から命を守るための効果的な学びの場を提供し続けられるよう、震災津波や防災・減災に関する専門的知見を有する岩手大学、東北大学（災害科学国際研究所）と、東日本大震災津波の伝承、発信、調査研究等に係る一層の連携推進を図る。

###### ア 岩手大学との連携に関する協定

令和2年8月3日(月)に締結した。

###### ・ 連携事項

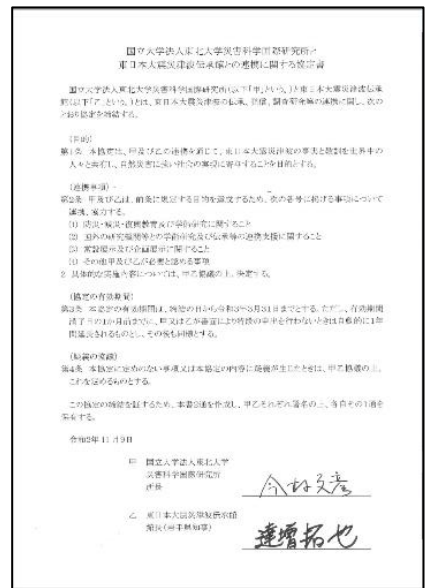
- ① 復興・防災教育及び学術研究に関すること
- ② 国内外の研究機関等との連携・交流に関すること
- ③ 伝承館の展示内容に関すること
- ④ その他伝承館及び岩手大学が必要と認める事項



###### イ 東北大学災害科学国際研究所との連携に関する協定 令和2年11月9日(月)に締結した。

###### ・ 連携事項

- ① 防災・減災・復興教育及び学術研究に関すること
- ② 国内外の研究機関等との学術研究及び伝承等の連携・交流に関すること
- ③ 常設展示及び企画展示に関すること
- ④ その他伝承館及び東北大学災害科学国際研究所が必要と認める事項



(2) 海外津波博物館との連携等による国際会議の開催

東日本大震災津波から10年の節目に、これまで交流のあるインドネシア・アチェ津波博物館及びハワイ太平洋津波博物館と連携し、国際会議を陸前高田市で開催し、震災からの復興と感謝、ミュージアム連携による防災力向上などについて情報発信を行う。

※ 開催については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、来年度に延期し、今年度はウェブを活用したセミナーを開催予定

(3) 岩手県立大学の地域協働研究による「伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査」

伝承館の来館者を対象に職員による対面方式のアンケート調査を実施。宿泊数、訪れてみたい観光施設と震災伝承施設を属性（年齢、性別、同行者、来場経験、居住地、訪問地、交通手段）や動機別（訪問目的）にクロス集計を行い、その結果を踏まえ、マーケティング戦略の検討を行う。

※ アンケートは、令和2年9月13日(日)から同年10月31日まで実施した。

◆東日本大震災津波伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査◆  
東日本大震災津波伝承館にご来館いただいた方を対象に、アンケート調査を実施しておりますので、ご協力をお願いします。

問1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、外国人の方は国名をご記入下さい。また、岩手県にお住まいの場合は市町村名もご記入下さい。

(都道府県名: ) 外国人の方(国名: )  
(岩手県市町村名: )

問2. あなたの性別、年齢をお選び下さい。※○はそれぞれ1つだけ

性別: 1. 男性 2. 女性  
年齢: 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代  
6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

問3. 東日本大震災津波伝承館への来館は日帰りですか、宿泊ですか、どちらか1つをお選び下さい。※○は1つだけ  
宿泊であれば何泊で、そのうち岩手県内の内陸部、三陸沿岸部は何泊ですか、泊数をご記入下さい。

1. 日帰り 2. 宿泊 ( )泊 → そのうち岩手県内の内陸部 ( )泊  
→ そのうち岩手県内の三陸沿岸部 ( )泊

問4. 伝承館の前に立ち寄った観光施設等と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する予定の観光施設等と移動に用いる交通機関についてもご記入下さい。※観光施設等は1つでも自由記載。交通機関は表から1つだけ

【ここに来る前に立ち寄った観光施設等】 【現在地】 東日本大震災津波伝承館 【このあと立ち寄る観光施設等】

交通機関

【表】交通機関 ①自家用車 ②レンタカー ③観光バス ④貸切バス ⑤タクシー・ハイヤー  
⑥BRTほか公共交通機関 ⑦バイク ⑧自転車... ⑨その他

問5. 伝承館を拠点にこれまで訪れた観光施設等、又は訪れてみたい観光施設等はどこですか。次の中からお選び下さい。※○はいくつでも

1. 箱根山・気仙大工左官伝承館(陸前高田市) 2. キャッセン(大船渡市)  
3. 碓氷海岸・世界の博物館(大船渡市) 4. 世界遺産橋野鉄鉱山(釜石市)  
5. 民謡のふるさとのお(遠野市) 6. 花巻温泉・宮沢賢治記念館(花巻市)  
7. 世界遺産平泉(中尊寺、毛越寺等) 8. 巖夷溪・げいひ沢舟下り(一関市)  
9. 浄土ヶ浜(富古市) 10. 龍泉洞(岩手町)  
11. 鶴の巣窟、北山崎(田野畑村) 12. 小袖海岸・北限の海女(久慈市)  
13. その他( )

問6. 伝承館を拠点にこれまで訪れた震災伝承施設、又は訪れてみたい震災伝承施設はどこですか。次の中からお選び下さい。※○はいくつでも

1. 奇跡の一歩松(陸前高田市) 2. 大船渡市立博物館(大船渡市)  
3. いのちをつなぐ未来館(釜石市) 4. 文化交流センターおしゃっち(大槌町)  
5. 遠野市後方支援資料館(遠野市) 6. 津波遺構たろう観光ホテル(富古市)  
7. 鳥越・羅賓ふれあい公園(田野畑村) 8. 菅代水門(菅代村)  
9. 地下水脈もくらびあ(久慈市) 10. その他( )

問7. エントランスには次のゲートウェイ機能に関する情報を提供していますが、どの程度役に立ちましたか。該当する番号をお選び下さい。※○は各項目1つだけ

	とても役に立った	ある程度役に立った	普通	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	見なかった
三陸ガイドマップ	5	4	3	2	1	0
311伝承ロードマップ	5	4	3	2	1	0
各種観光パンフレット	5	4	3	2	1	0

問8. 伝承館の見学は今回で何回目ですか。該当する番号をお選び下さい。※○は1つだけ

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目以上

問9. 今回の来館は、あなたを含めて「何人での」来館ですか。人数をご記入下さい。※子供や乳幼児も含む  
また、2人以上の場合、どなたと一緒に来館しましたか。該当する番号をお選び下さい。※○は1つだけ

( )人 (2人以上の場合は複数記入) 1. 家族 2. 友人 3. 仕事の関係者  
4. 学校の団体 5. その他(具体的に)

問10. 伝承館は何で知りましたか。該当する番号をお選び下さい。※○はいくつでも

1. ホームページ・SNS 2. テレビ・ラジオ  
3. 新聞記事 4. リフレット・チラシ  
5. 観光情報誌等・ガイドブック 6. 学校での授業・研修会  
7. 友人・知人・家族から 8. その他( )

問11. 伝承館を訪れた理由は何ですか。該当する番号をお選び下さい。※○はいくつでも

1. 東日本大震災津波について学ぶため 2. 展示内容に興味があったから  
3. 新しくできた施設だから 4. 家族・知人に見せたかったから  
5. 家族・知人に勧められて 6. 公園・道の駅に立ち寄ったついで  
7. その他(具体的に記入)

問12. 伝承館の滞在時間についてお尋ねします。滞在時間を分単位でご記入下さい。

調査項目	滞在時間
1. 実際の滞在時間	( )分
2. 見学に必要なと感じた滞在時間	( )分

問13. 伝承館の満足度についてお尋ねします。該当する番号をお選び下さい。※○は各項目1つだけ

調査項目	とてもよかった	よかった	普通	やや不満	不満
1. 伝承館の展示内容について	5	4	3	2	1
2. スタッフの対応について	5	4	3	2	1

問14. 伝承館について、ご意見ご感想をお聞かせください(自由回答)。  
ご意見・ご感想

☆ご協力ありがとうございました。調査票はスタッフにお渡し下さい。伝承館オリジナルグッズを差し上げます。☆  
【調査日時 月 日、 時】

画面に続きます⇒

2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組

(1) 震災伝承施設追加登録に向けた取組

県内の震災伝承施設の登録については、震災後整備された伝承施設は概ね登録されたところであり、今後は、東日本大震災津波以前の石碑・慰霊碑についても、市町村と連携しながら、登録に向けた掘り起こしに努めていく。

- 沿岸12市町村震災津波伝承担当課長あて「震災伝承施設の登録について(依頼)」(令和2年8月25日付け震伝第4号)を发出した。
- 沿岸9市町村を訪問し、追加登録についてヒアリングした。(R2.9.9~9.16)

- (2) 「震災伝承施設」追加登録に伴う展示施設の時点更新  
震災伝承ネットワーク協議会において追加登録された「震災伝承施設」を、エントランスの展示施設「3.11 伝承ロード [地図]」に追加表示するなど、時点更新する。
- (3) 3.11 伝承ロード推進機構の取組と連動した情報発信  
3・11 伝承ロード推進機構の事業と連動し、広域的な震災伝承ネットワークの構築に向けた取組を推進する。(3.11 伝承ロードパンフレットの配架、ツアーの受入れ)

## V 避難訓練・受賞

### (1) 避難訓練の実施

ア 令和2年9月1日（火・防災の日）午前9時30分実施

- ・ 参加機関 道の駅高田松原、東日本大震災津波伝承館、(一財)公園財団高田松原津波復興祈念公園分室及び陸前高田市
- ・ 内容
  - 第1部 来場者を待機場所である水盤前まで避難誘導  
参加者：施設職員及び一般来場者 40名
  - 第2部 8月24日から供用開始された気仙小学校に上がる避難経路を徒歩で確認。  
参加者：施設職員 13名



イ 令和2年11月5日（木・津波防災の日、世界津波の日）13時50分実施

- ・ 参加機関 道の駅高田松原、東日本大震災津波伝承館、(一財)公園財団高田松原津波復興祈念公園分室、一関市立川崎小学校及び一般来場者
- ・ 内容 来場者を待機場所である水盤前まで避難誘導  
参加者：施設職員及び一般来場者 60名





(2) 第6回日本展示学会賞

- ア 主 催 日本展示学会  
イ 対象期間 2016年1月1日～2019年12月31日  
ウ 日本展示学会賞 東日本大震災津波伝承館ほか15点  
エ 当館受賞内容（日本展示学会ホームページより）

東日本大震災に関連した国県レベルでは初めて整備された施設である。

展示テーマは「命を守り、海と大地と共に生きる」で、「歴史をひも解く」「事実を知る」「教訓を学ぶ」「復興を共にすすめる」の4ゾーンで構成されている。

津波のメカニズムの映像装置、東北地方整備局の災害対策室の移設・再現、津波の巨大なパワーを示す変形した橋梁や大破した消防車両の実物展示など工夫がみられる。バランスのとれたコンテンツと、抑えられた展示デザインで過度に感傷的にならず震災の実相を正確に伝えており、高く評価できる。この展示を含む「津波伝承館」は高田松原津波復興記念公園内の入り口的施設である。公園内には、「旧道の駅タピック 45」「旧気仙中学校校舎」などの震災遺構や復元した「奇跡の一本松」が、また海に臨む中核的な位置に国の追悼・祈念施設が置かれている。

プレック研究所・内藤廣建築設計事務所 JV が計画した公園全体は優れた屋外展示であり、併せて高く評価したい。



(3) 日本空間デザイン賞 2020BEST100（ショートリスト）

主催：一般社団法人日本空間デザイン協会、一般社団法人日本商環境デザイン協会

(4) ディスプレイ産業特別賞（日本経済新聞社賞）

主催：一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会

<参考1> 新聞記事等

1 新型コロナウイルス感染症対策、伝承館運営協議会

○令和2年6月16日 岩手日報

## 津波伝承館 発信強化へ

陸前高田 運営協議会が会合

陸前高田市気仙町の東日本大震災津波伝承館の運営協議会（会長・南正昭岩手大理工学部教授）は15日、国営追悼・祈念施設セミナールームで本年度初会合を開き、情報発信や幅広い対象への教訓伝承など今後の施設運営について意見を交わした。

委員9人が出席。事務局は昨年9月の開館から3月までに約14万9千人が来館したと説明。同市広田町に整備中の野外活動センターと連携した児童・生徒向け学習プログラムの検討など本年度事業計画を示した。

運営について委員は「新型コロナウイルス感染症の影響がある今こそ有効なツールでの情報発信を強化すべき」「震災未経験の職員が増えている自治体にも働き掛けをしてほしい」と指摘。解説員に関しては「説明の厚みを増すために震災以外の災害について研修で学んでほしい」と求めた。事務局によると、同感染症の影響に伴う団体予約のキャンセルは6月までに約80件で計約3千人に上った。インドネシアや米ハワイ州の津波博物館と連携して今秋に市内で開催予定だった国際会議は、同感染症の動向を見ながら延期や代替案なども含めて検討する。



新型コロナウイルス感染症対策の説明を受ける委員

2 東日本大震災津波伝承館企画展示

○令和2年6月12日 東海新報

## 「津波堆積物」に注目

津波伝承館 7月8日まで企画展示 陸前高田

陸前高田市の東日本大震災津波伝承館による企画展示「地面を掘って津波を発見!」は11日、同館ゾーン4道の駅側・地域情報スペースで始まった。同館で常設展示する「津波堆積物剥ぎ取り標本」に注目した内容で、多くの来館を呼びかけている。7月8日(水)まで。

同館では常設展示に加え、防災などをテーマにした企画展示を実施。震災の教訓などを発信、伝承している。今回は、津波防災への意識を高め、最新の津波堆積物研究の成果などに触れてもらおうと開催した。

津波堆積物は、津波によって運ばれ、陸地にたまった砂やれき（小石など）をさす。湿地や湖、沼などの地層の中に砂れきの層として保存されることが分かっており、津波堆積物がたまった年代を調べることで、過去の津波の発生時期やその間隔を解き明かせるという。

標本は、2枚の板をくい打ち機で地中に差し込んで取り出した地層を剥ぎ取り、板などのほぼ原寸に近い大きさの写真を用い、約6000年にわたって生じた長さ4センチの地層を紹介。5000年前以降の地層には、津波発生のおとが複数現れる。

1000年前から現代になると、貞観地震津波とみられるものや、慶長奥州（三陸）津波を剥ぎ取り、板などに固定して製作。同館では、平成26年に山田町船越の小谷島地区で採取された標本を常設展示している。

企画展示では、標本のほぼ原寸に近い大きさの写真を用い、約6000年にわたって生じた長さ4センチの地層を紹介。5000年前以降の地層には、津波発生のおとが複数現れる。常設展示とセットで見ると、防災や津波研究に理解を深めてほしい」と話している。

展示時間は午前9時から午後6時。問い合わせは同館（TEL47・4455）へ。

会場では、標本の作り方や地層観察のポイントなども紹介。同館では、「津波堆積物は、文献では分からない過去の津波も伝えている。常設展示とセットで見ると、防災や津波研究に理解を深めてほしい」と話している。



津波堆積物の研究を紹介する企画展示がスタート

## 津波企画展示 時系列で解説

陸前高田・伝承館

陸前高田市気仙町の東日本大震災津波伝承館の企画展示「震災津波の時間経緯」は8日、同館で始まった。地震直後の3度にわたる津波警報発表、実際に観測した津波などを時系列で解説している。

展示では2011年3月11日午後2時46分の地震発生から約45分間の動きを紹介。同2時49分に本県3級、同3時14分に同6級、同3時半に同10級以上と予想し



「大津波警報発表のほか、実際の津波の観測状況も示した。3月13日まで発表されて

東日本大震災の発生直後の経緯を解説する企画展示

いた津波注意報・警報の推移を11枚の地図で説明。緊急地震速報や警報発表の仕組み、本県沿岸部と沖合にある津波観測点も写真などを交えて伝えている。

同館の斎藤里香上席専門学芸員は「地震や津波情報の発表は改善の努力が進められてきたが、あくまで主体的な避難行動への意識を高めてほしい」と呼び掛ける。

展示は10月11日まで。午前9時～午後6時。入場無料。

### 3 教育・普及事業

○令和2年6月19日 岩手日報

#### 津波伝承館学び再開 受け入れ 児童

陸前高田市 陸前高田市 気仙町の東白 つめた。 本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」は18日、本年度初めての校外学習として大船渡市の赤崎小（細川佳紀校長、児童121人）の4年生26人を受け入れた。今後も新型コロナウイルス感染症対策を徹底して子どもたちへの発信を続ける。

4年生は震災を学ぶ総合学習の一環で訪問。2班に分かれて館内を見学し、沿岸部を襲った大津波の映像を視聴。津波に押し流された消防車両や橋桁などの展示物を真剣なまなざしで見つめた。

児童の多くは震災時に0歳で、地震や津波の記憶がない。山口美緒さんは「まちや家を次々と襲ったおちり、大きな津波だったことが分かった」と意識し、磯谷美空さんは「津波が来る前にすぐ高台に逃げるようにしたい」と誓った。

同館は同感染症の影響で4月12日～5月24日に休館。今後は7月にかけて4校の校外学習を予定する。

本年度は小学生向けの「震災津波学習ノート」も作成する。



津波に押し流された橋桁を見学する赤崎小の子どもたち

○令和2年7月21日 朝日新聞

## 津波伝承館からオンライン授業



カメラに向かって伝承館を紹介する小笠原伸也主査(中央) 〓いすれも陸前高田市

陸前高田市の東日本大震災津波伝承館は20日、愛媛県の伊予高校をオンラインで結んだ遠隔授業をした。伝承館の施設を紹介しながら、津波防災の大切さを伝えた。

同校の1年生約180人が参加。2年前の西日本豪雨で愛媛県でも被害が出たことから、今回の授業を希望したという。伝承館の小笠原伸也主査が館内を回りながら、カメラに向かって三陸の津波被害の歴史や防災対策を説明した。

新型コロナウイルスの感染が



伝承館のモニター画面には愛媛で授業を受ける生徒の姿が映し出された


### 愛媛の高校生180人に

拡大する中、来年で発生から10年を迎える震災で起きたことや教訓を伝えていくため、初めて取り組んだ。小笠原主査は「相手の反応が見えず、解説が難しい。足を運んでいただくのが一番いいが、代替手段も考えていきたい」と話した。

熊谷正則副館長は「試験的な取り組み。自然災害が多発する中で、避難や備えの重要性を伝えていくいい機会になった。先方の評価も聞きながら今後の在り方を探っていきたい」として

(大久保泰)

○令和2年8月5日 読売新聞



写真展「津波時警察活動写真展」

展示は19日まで（午前9時～午後6時）。

## 北から 南から

### 震災時の警察活動 写真37枚を展示

◆陸前高田市◆ 東日本大震災津波伝承館で、震災当時の警察活動を紹介する写真展「写真展」が開かれている。

警察が取り組んだ幅広い活動を通じて防災意識を高めてもらおうと、県警本部と伝承館が主催した。県内には震災直後、全国の警察署から応援の署員が駆けつけ、人命救助や行方不明者の捜索にあたった。写真展では、避難所の住民に「お変わりございませんか」と声をかける警察官の様子など、県警が撮影した写真37枚を展示している。





後半は団体の規模に応じた見学のモデルケースや、避難所運営ゲームと組み合わせた学習方法の説明を受けた。奥州市の衣里小の曰下恵教諭(右)は「自分も津波を経験してはいないが、実際に来ることが大事だと改めて思った。宮古市で9月に学習旅行を予定しており、事前指導に役立てたい」とうなずいた。

研修会には40人以上の応募があったが、新型コロナウイルス感染症対策で密集を避けるため人数を制限した。今後同様の研修会の継続を目指す。

同館はコロナの影響で県内を中心に学校の見学希望が減少している。学校現場での復興教育に役立てようと館内の展示を見学する教員

### 陸前高田の津波伝承館

陸前高田市気仙町の東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」は7日、教員向けの研修会を現地で開催した。震災を経験していない子どもが増える中、まずは教員自ら震災へ理解を深めてもらい、学習旅行の誘致にもつなげようという企画。県内小中高の24人が館内や周辺の遺構を視察し、復興教育の充実へ意識を新たにしました。

参加者は子ども向けのガイダンス映像を視聴し、同館の小笠原伸也さん(左)の解説で館内のパネル展示や震災の遺物を見学。児童生徒向けに同館が配布している学習シートと照らし合わせ、熱心にメモを取った。高田松原津波復興祈念公園内も視察した。

## 教師研修会を初開催

# 復興教育充実の力に

## 来館20万人を突破

### 陸前高田 津波伝承館 防災教育の利用増加

陸前高田市の岩手県東日本大震災津波伝承館の来館者が、累計で20万人を突破した。2019年9月22日の開館以来、県内外から多くの見学者が訪れ、遺物や被災者の証言を通じて津波の警戒と教訓を学ぶ。防災教育の場として活用が広がり、6月以降は小中学生の利用が伸びている。

月別の来館者数はグラフの通り。開館直後の19年10、11月は秋の行楽や修学旅行の時期と重なり、両月とも3万人を超えた。冬場も1万人超の来館が続く。20年1月に10万人に到達した。震災の発生から9年となった3月は2万5000人を上回った。

4、5月は新型コロナウイルスの感染拡大防止で臨時休館したが、6月以降は増加傾向が続く。校外学習での見学が多く、20万人に達した8月27日も南陽市の中学生が100人規模で訪れた。

伝承館では、震災当時の状況や災害から命を守るための教訓「陸地域を繰り返さない」をテーマに、低調に推し進めた。6月以降は増加傾向が続く。校外学習での見学が多く、20万人に達した8月27日も南陽市の中学生が100人規模で訪れた。

返し襲った過去の津波などを学ぶことができる。本年度は学校利用をさらに伸ばす。

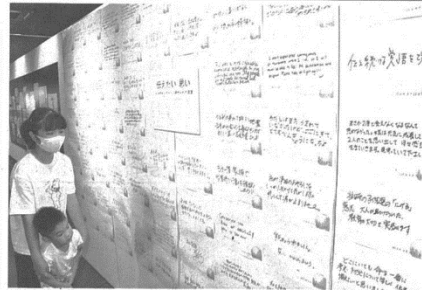


そうと、職員が各校に出向いて施設の概要を直接説明したり、教職員向けの見学研修会を開催したりした。来年3月に迎える震災から10年の節目に向け、熊谷正則副館長は「解説に工夫を加えながら震災の事実、教訓をしっかりと伝えていく」と話す。

津波に巻き込まれた消防車などを見ながら館内を回る小学生 =6月18日

# 来場者の誓い振り返る

陸前高田市気仙町の東日本大震災津波伝承館は、来館者が記したメッセージを館内に展示している。22日で開館から1年。被災地への思いや教訓を伝える決意、防災の誓いなどの言葉が並ぶ。



陸前高田・津波伝承館

## あす1周年、館内展示

東日本大震災津波伝承館の来館者が記したメッセージ

昨年9月の開館以降、来館者がメッセージボードに記した788点のうち92点を展示。埼玉の教師は「子どもたちに伝えていきます。忘れてはいけない記憶です」と記し、盛岡市の来館者は命を一番に考え、防災について学び、備えたいとつづる。英語やロシア語や外国人からのメッセージも。1月に来館した米国ハワイ州のハワイ企業津波博物館のマーリン・ス・ムリ1館長は「忘れないで、昨年12月に訪れたインドネシアのアチエ津波博物館のハブ・ダール館長は「災害から学び続ける」と書いた。津波伝承館の来館者は今月18日時点で約1万人に達した。熊谷正則館長は多

くの素晴らしいメッセージを残してもらった。今後も震災の事と教訓をしっかりと伝えていきたい」と見据える。開館時間は午前9時～午後5時、入館無料。

# 来年度の公開目指す

## 震災遺構の2施設 市が内部見学ルート公表

陸前高田



内部公開に向け、改修工事が始まったタピック45（旧道の駅高田松原）

陸前高田市は、東日本大まっている旧気仙中学校舎と震災の遺構として保存が決タピック45（旧道の駅高田松原）の内部見学ルートを公表した。保存活用のため、改修工事は県に委託し、今月に入り着手。立ち入り防止柵設置や劣化防止処理などを行い、来年度の公開を目指す。

見学は事前に申し込みを受け付けらうえ、ガイドが案内する方向で検討中。タピック45、旧気仙中ともに周囲をフェンスで囲み、内部ルート上は支障物のがれきなどを撤去し、一方通行にする。タピック45は、南側の出入口から内部の一部を公開。旧気仙中は1〜3階の教室や職員室、特別教室などを巡れるようにする。旧気仙中学校舎には、当時の生徒たちのものとみられる教科書などが残っている。今月中旬、市からの委託を受けて被災写真など「思いの品」返却に取り組み一般社団法人三陸アークカイフ減災センター（秋山真理代表理事）が、市職員立ち会いのもと校舎内で持ち主の特定に「つながりそうな物品を探した。同市では、震災犠牲者の追悼、津波の教訓、地域にぎわい再生などの機能を有する高田松原津波復興記念公園が国、県、市によって整備されている。昨年9月には、国営追悼・祈念施設の一部、震災津波伝承館、新たな道の駅「高田松原」がオープンした。公園内では、津波で被災した▽タピック45▽旧気仙中学校舎▽奇跡の一本松▽陸前高田ユースホステル▽下宿定住促進住宅」の五つを遺構として保存活用する。内部を公開するのは、タピック45と旧気仙中のみとなっている。遺構は、同公園整備主体の県が改修や外構工事などを行い、来年3月に完了予定。すべて市が所有・管理

する。塚伸也建設部長は「当市は防災・減災にも力を入れている。震災の教訓を伝える遺構を、防災教育の推進につながる施設としていきたい」と展望する。



# 津波教訓 連携し海外へ

## 伝承館・東北大災害研 協定

東日本大震災の教訓と震災からの復興を発信しようと、国内外の研究機関と連携する動きが県内で相次いでいる。東日本大震災津波伝承館（陸前高田市）は9日、東北大災害科学国際研究所と連携協定を結ぶほか、県は年内にも、海外の津波博物館をオンラインでつないでセミナーを開く。5日は「世界津波の日」を。震災後も世界各地で津波被害が発生しており、発信することの重要性が増している。

**世界津波の日** 1854年の11月5日(旧暦)に起きた安政南海地震で、稲わらにつけた火を目印に住民を高台に誘導し、多くの人命が津波から救われたという和歌山県広川町の逸話「稲むらの火」に由来する。東日本大震災を受けて国が2011年この日を「津波防災の日」に定め、15年12月、国連総会で「世界津波の日」とする決議が全会一致で採択された。



2004年インド洋大津波の被害を伝えるインドネシアのアチエ津波博物館。同津波では約23万人が犠牲になった(2012年7月、同国西部・パンダアチェで)＝中根圭一撮影

## 配信翻訳など助言・橋渡し

伝承館が東北大災害研と結ぶ協定では、伝承館が災害研の研究を支援し、災害研は伝承館の展示に関して指導・助言を行う。

「世界津波の日」の5日、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園で津波を想定した避難訓練が行われた。写真。訓練は、宮城県沖を震源とするマグニチュード6.5の地震で震度5弱の揺れを観測し、津波注意報が発表されたとの想定。同公園や東日本大震災津波伝承館、道の駅高田松原の職員や来館者らが参加した。復興学習で伝承館を訪れていた一関市立川崎小の児童18人は、解説員

伝承館を運営する県は、災害研に「海外との橋渡し役」を期待する。オンラインセミナーは動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開



避難訓練「落ち着いて」

陸前高田

「世界津波の日」の5日、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園で津波を想定した避難訓練が行われた。写真。訓練は、宮城県沖を震源とするマグニチュード6.5の地震で震度5弱の揺れを観測し、津波注意報が発表されたとの想定。同公園や東日本大震災津波伝承館、道の駅高田松原の職員や来館者らが参加した。復興学習で伝承館を訪れていた一関市立川崎小の児童18人は、解説員

も検討する。災害研の柴山明寛准教授は「岩手から学ぶ点は多い」「ここにきてよかったと話したという。柴山准教授は岩手では津波の指示でその場にかがんで手で頭を守った後、解説員の誘導で館外に向かった。5年の小野寺琉煌君(10)は「本番でパニックにならないよう、訓練で落ち着いて避難できるようにしたい」と話した。避難は約4分で完了。市の中村吉雄防災課長は「揺れが収まるまでは落ち着いて身の安全を守る行動をとり、余裕のある人には自力で避難できない人の避難をサポートしてほしい」と語った。

## ＜参考 2＞ 東日本大震災津波伝承館概要

### 1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

#### IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

##### 1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

##### 取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

##### ① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

### 2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

### 3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

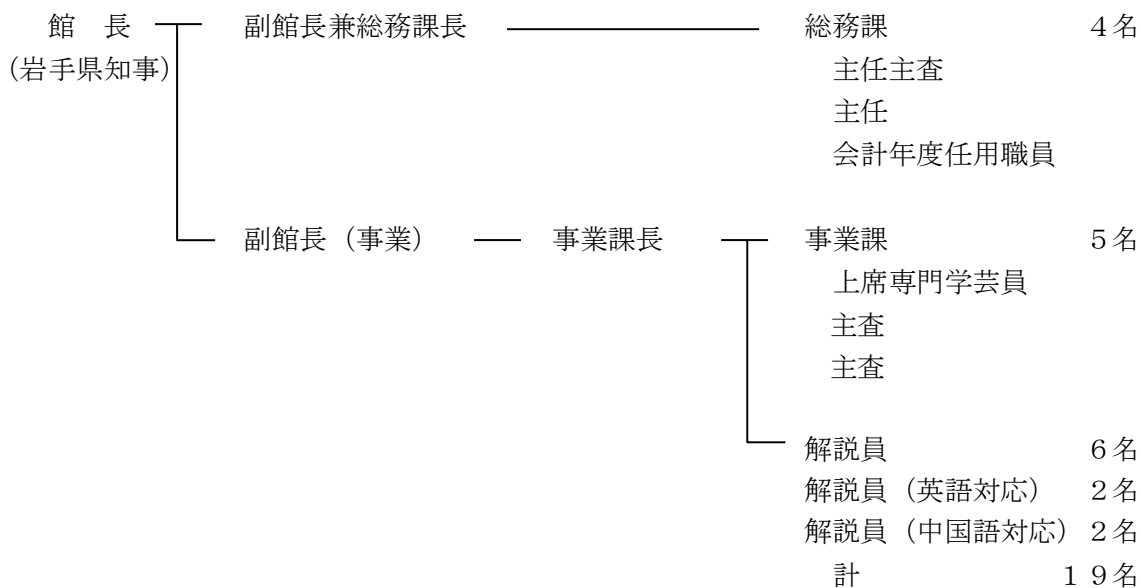
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

### 4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m <sup>2</sup> のうち展示面積 1,155 m <sup>2</sup>
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

## 5 組織体制



令和2年8月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	達増 拓也 (知事)	【解説員】	
【総務担当】		解説員	戸羽 純子
副館長兼総務課長	熊谷 正則	〃	千田 房代
主任主査	熊谷 和典	〃	美野 生子
主任	及川 源太郎	〃	吉田 彰
会計年度任用職員	山本 摩耶	〃	人首 ますよ
【事業担当】		〃	高橋 真弓
副館長	立花 起一	解説員(英語対応)	金野 聡子
事業課長	里舘 真介	〃 ( 〃 )	熊谷 葉月
上席専門学芸員	齋藤 里香	解説員(中国語対応)	下斗米 霞
主査	佐々木 済通	〃 ( 〃 )	海山 めい
主査	小笠原 伸也	計	19名